

校長先生の人権講演会に80名 自分を好きになり思いやりのある子に

友生地区の人権啓発草の根運動推進会義と住民自治協議会教育文化部会の共催による人権講演会が、2月15日、友生地区市民センターで、開催されました。

本年度を締めくくる事業として、今回は友生小学校校長の奥井肇久先生に講師をお願いしました。

『互いの違いを認め合い 豊かにつながるために』～友生小学校の取り組みと子どもたちの実態～と題して、日ごろの人権・同和教育や学校でのさまざまな学習の様子など、その特徴的なものをパワーポイントを使って映像を見ながら解説していただきました。



友生小学校の5つの教育目標のうちのひとつに「人権意識の高揚と豊かな人間性の育成」が挙げられていて、人権学習や集会などの機会をとらえて子どもたちの自尊感情や自己肯定感を高める取り組みや、人権意識を磨く学習に取り組まれています。

その具体的な一例として、子どもたちが周りの人から大切にされていることを認識するために、家族から小さい頃の話や、親から自分の名前を付けてもらった由来を聞いてきたり、家族のすてき発見などを通して、自分の良さを認識することで、友だち同士の違いを認め合い、好きな自分と同じぐらい相手を思いやる心に繋げていく実践に取り組んでいるとのこと。

アンケートの「自分に良いところがあると思いますか」との問いに、「あてはまる」との回答が51%、「どちらかというにあてはまる」の回答が38.1%で、合わせて89.1%（2学期）が自分を肯定的に捉えていて、目標の80%を超える結果が出ているものの、少数ながら否定的に答えた児童もいることが気掛かりとのこと。

子どもの心を育て、コミュニケーション能力を育てるためには、子どもの成果を褒めたり驚いて見せたりして、言葉をかけるなど、言葉の大切さを強調されました。また、普段家庭や地域では大人が子供を温かく見守る環境づくりが大切と話されました。

この日は約80名の参加をいただき、会場は満席となるほどの大盛況で、大変有意義な講演会となりました。

春の全国交通安全運動

4月6日（土）～4月15日（月）
「ゆずりあう 心が三重（みえ）る 道が好き」
～ 安全は あなた自身の 心がけ ～



木代短歌会

二月詠草

三五一回



独り居の友へ出したるわが手紙に返信なければ
 心にかかる 服部 龍子
 菌の駒打ち込むひびきリズムよし夫は軒端に木
 槌ふりつぐ 谷本 律子
 腐葉土を作らむと落ち葉かき寄せる櫟林に冬の
 日温し 榎 順子
 鍛冶屋にて父特注の鋏ゆゑか使ひこみたる道具
 の一つ 山本いつ枝
 絵に描いたやうな子育てなどないんだよ養老孟
 司静かに語る 北村 玲子
 煮上がりし黒豆光りキッチンをあかりを楕円の
 中に映しぬ 佐々木聖子
 十枚の奉書紙に押すわが手形満足なものはない
 なか出来ず 小澤 栄子
 強風に揺るる木の上命綱付けて庭師も共に揺れ
 をり 溝脇 たき
 （選者）
 回復せしわれの視力に冬の夜の牡牛座六連星お
 ほよそ見分く 森下 達也

高德寺境内のカゴノキ 市の文化財に指定



市文化財保護審議会の答申を受けて、高山の高徳寺境内のカゴノキが、このほど伊賀市教育委員会から市の文化財の天然記念物に指定されました。

カゴノキは、幹の様子がちょうど子鹿の肌の斑紋に似ていることから『鹿の子（カノコ）』または『カゴカ』ともいわれています。

本州では、茨城県、福井県以西と四国、九州、沖縄、海外では台湾や朝鮮半島南部など高温の地に生育が見られ、用途としては、太鼓の胴や帆柱の楔、鏡台、火鉢、小細工物などのほか車輪や農具などに用いられてきました。

高德寺のカゴノキは、高さは20m近くに達し、根元の周囲は4m以上で、樹齢は400年程度といわれ、見晴らしのよい本堂西側の斜面から身を乗り出して、集落を見渡すように、高々とそびえています。

平成3年に、三重県農林水産部林政課が発行した『伊賀の名木30選』にも取り上げられ、「生活圏内にあるカゴノキでは県内最大のものと思われる」と記されています。

『鹿子』に『火護』の字を充てて、本堂を火災から護るため、縁起をかついで、昔の人が植えたとも伝えられています。

投稿句

日は月のごとくや伊賀の春の霧
上忍址虎口に大き春の霧
哇焼く火ひたと止まりしあとありぬ 橋本 良

薪ストーブ組立てている日曜日
賀状書く新の硯と筆三本
柁をさし忘れずにとなり組 山島勝年

俳句に限らず皆様の投稿を
お待ちしております。



緊急時の情報伝達手段として

市民センターに屋外拡声小局を設置

災害などの緊急時に迅速かつ確かな情報通信を行う手段のひとつとして、このほど、友生地区市民センターに屋外拡声小局の設備が設置されました。

この設備からは、避難勧告情報など災害時の緊急情報のほか、『全国瞬時警報システム』により国民保護情報として送られてくる弾道ミサイル情報や大規模テロ情報、航空攻撃情報などが流されます。

また、柱に付いているボックス内のマイクを使って、避難訓練の際の呼びかけなど地域の防災情報を直接放送することができるほか、無線設備も備えられていて、緊急時に市役所本庁や支所と交信することができます。

なお、毎日夕方の5時には、ミュージックサイレンで「七つの子」のメロディーが流れ、時報を知らせてくれます。

伊賀市では、これまで市内133箇所に防災行政無線屋外拡声小局を設置しており、友生地区では高山に1基設置されていましたが、今回新たに友生地区市民センターのほかに中瀬地区市民センターや依那古保育所など市内18箇所に設置されました。

友生地区市民センターの設備は、4月1日から供用開始される予定です。



久米川クリーンウォークで 川がきれいになりました

3月2日に、地区内の主要河川で、久米川クリーンウォークが行われました。

ポイ捨ての空き缶やゴミなどを拾っていたき、きれいな川になりました。

強風の寒い中、ご参加いただいた皆さんありがとうございました。

【写真は中友生地内にて】

携帯電話から 防災情報を受信 『あんしん・防災ねっと』

災害時の情報伝達手段として『あんしん・防災ねっと』と呼ばれるものがあります。

これは、携帯電話のメールアドレスを登録すると気象警報の発表・解除、避難勧告情報など、災害時の緊急情報が、伊賀市から送られてくるシステムです。

登録は無料で、簡単に登録できるので、市ではこの機会に登録を勧めています。

【登録アドレス】

<http://www.anshin-bousai.net/iga/>

バーコード機能のついた携帯電話をお持ちの方は、QRコードを利用できます。

詳しいことは、市の総合危機管理室（電話22-9640）へおたずねください。

歌やゲームで楽しく

友生地区のいきいきサロン開催される

友生地区の『いきいきサロン』が2月15日、友生地区市民センターで開催されました。

普段独りで暮らしの方や、夫婦だけで暮らしの方を招いて、楽しいひと時を過ごしていただくとうと民生・児童委員や健康の駅長、住民自治協議会福祉部会の皆さんが中心となって開催され、34名の皆さんにご参加いただきました。

午前中は友生保育園のひまわり組の皆さんの劇や合唱、合奏を聞いたり、触れ合い遊びで交流を深めました。

午後からはボランティアグループの『なでしこクラブ』の皆さんによる伝言ゲームやタオル体操をしたり、紙芝居を見たり、全員で童謡や手話を交えた歌を歌ったりして楽しいひとときとなりました。その後、伊賀市健康推進課の保健師からお口の健康の話聞き、合間にぜんざいやお菓子などいただきながら、最後にくじ引のプレゼントもあり、和気あいあいのうちに閉会となりました。



喰代地区でもいきいきサロン 地元産の蕎麦や料理に舌づつみ

喰代地区の『いきいきサロン』が2月24日、同地区の公民館でにぎやかに開催されました。

地域の世代間交流を深める取り組みとして、老人クラブの方や小学生ら50名が参加して、午前中は、昨年同地区で収穫した蕎麦粉を使って蕎麦打ちに挑戦しました。

また、午後からは焼き肉や焼き魚、ぜんざい、猪汁などの料理を楽しみ、親睦を深めるにふさわしい取り組みとなりました。



住民自治協議会より

スポーツ推進委員候補 健康づくり推進委員 市民センター職員の推薦

伊賀市とのまちづくり協定に基づく住民自治協議会の業務として、このほど、総務部会（区長会）において、次のとおり次期委員等の推薦を決定し、その旨報告させていただきましたので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。（敬称略）

*スポーツ推進委員候補者：辻 成尚（下友生）・・・平成23年からご尽力いただいた澤 久忠さん（上友生）は3月末で退任されます。2年間ありがとうございました。

*健康づくり推進委員（健康の駅長）：富岡憲子（中友生） 雪岡圓子（蓮池）・・・平成15年からご尽力いただいた濱 明美さん（喰代）は、3月末で退任されます。10年間ありがとうございました。

*市民センター職員 所長：久保善信 主事：竹内清美 事務員：町田厚子

友生地区住民自治協議会 会長 保田一夫